

**全体の概要**  
 本校正答率は、県の正答率とほぼ同じである。しかし、到達度分布では、「十分達成」の生徒の割合が県よりも低く、「おおむね達成」が県よりも高い。「要努力」の生徒の割合はほぼ同じである。つまり、学力向上の余地という観点からすると、まだまだ伸長を期さなければならない生徒が多いと考えられる。なお、「国語の勉強は好きだ」に「当てはまらない」と答えた生徒は33%で、昨年の7年生の6.3%を大きく上回っており、国語を苦手とする生徒が多いが、「無回答率」は、すべての項目で県平均を下回り、解答しようとする意欲が感じられた。

分析結果・自校の課題		改善に向けた具体的取組
話すこと・聞くこと	<p>本校正答率は、県の正答率をやや上回っている。「話すこと・聞くこと」に係る問題は、話し合いにおける発言者と司会者のやりとりを文章化し、その姿勢や発言内容について答えるもので、話し手の意図や発言内容の把握、構成把握の問題は県と同等の正答率である。最後の設問のみ条件作文の形式となっており、この問題の本校正答率は県の正答率を大きく上回った。</p>	<p>国語の授業で、話し合い形式の学習を取り入れ、発表内容的確さを確認したり、司会の在り方、運営の方法を再確認したりする学習を、「話す力、話し合いを運営する力」のより一層の伸長を図る。また、日常の場面でも、「コミュニケーション活動」の重視により、発表を行う力、発表をまとめる力、資料を活用して伝える力の更なる定着を図る。</p>
書くこと	<p>本校正答率は、県の正答率をやや下回っている。「書くこと」に係る問題は、リーフレットの下書きについて、書いたり、記号で答えたりするものでおおむねできている。最後に、ぼ金の協力を呼びかける条件作文形式の問題があるが、この問題の本校正答率は、県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>字を雑に書くことで、思考力、構成力も雑になり、全体像をもたないまま書き上げる傾向がある。マス目のある原稿用紙を用い、字数を意識させるところから始めたい。特に7年の段階では、起承転結や序論・本論・結論などの構成力をつけることに重点を置いた指導を行う。「話す」ことの正答率が高いので、「話す」ことを「書く」ことに生かす指導を行い、得意分野を生かした指導を行いたい。</p>
読むこと	<p>本校正答率は、県の正答率を大きく下回った。「読むこと」に係る問題は、小説及び説明文の読解を問うものである。小説については、「行動や情景などから、登場人物の気持ちの変化を捉える」問題の本校正答率が、県の正答率を大きく下回った。説明文については、「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える」問題と「文章の要旨を捉え、そのことについての自分の考えを明確にする」問題の本校正答率が、県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>文学的文章や説明的文章の読解力に課題が見られる。特に説明的文章や論説文など、日常的に触れる機会が少ない文章については、接続表現や指示語に着目させ、筆者の論理的思考を読み取る力を高めたい。また、文学的文章については、登場人物の言動や場面描写、情景描写から登場人物の心情を読み取る練習を重ね、力を育てたい。文字にすることで、考えが整理されまとまるので、「書く」活動と合わせた指導を取り入れていく。</p>
言語事項	<p>本校正答率は、県の正答率とほぼ同じである。「言語事項」に係る問題は、漢字の読み書き、熟語の組み立て、漢字の由来、主語選択について問うものである。「評判」の書き取り、漢字の由来、主語選択の本校正答率が、県の正答率を大きく下回った。「反らす」の読み、「志す」の書き取り、熟語の構成についての問題は、本校正答率が、県の正答率を大きく上回った。</p>	<p>言語に関わる知識・理解・技能については、内容が多岐にわたっており、普段からの言葉に対する関心と意欲が大切である。特に漢字の習得には地道な努力が欠かせない。引き続き、宿題と漢字テストを連動させ、生徒の意欲を喚起する。また、反復学習や小テストの実施により、言語事項に関する学習内容の定着を図っていく。</p>

## 全体の概要

県の正答率と比べると大きく上回る結果である。観点別においては、「知識・理解」は県を上回る程度であるが、「見方や考え方」「技能」の2つの観点と内容・領域等はすべて大きく上回っている。生活・学習状況においては、「数学の学習は好きだ」という問いに対して64%の生徒が「当てはまる、どちらかという」と当てはまる」と答えており、県とほぼ同じである。また、「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解しようとしている」という問いに62%の生徒が「当てはまる」と答えており、県を大きく上回っている。学習に対して、根拠を大切にしようという気持ちをもっている生徒が多い。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
見方や考え方	「見方や考え方」の観点では、県の正答率と比べるとすべて上回っており、6問中4問は県正答率を大きく上回っている。特に、数量関係やその理由を考えたり、説明したりする問いは大きく上回っている。その中で「2つの数量関係を文字を用いた式で表す方法を考えることができる」と「複数の資料を関連づけて考えることができる」という問いが、県の正答率と大きな差がなかった。	「見方や考え方」は、思考力を問う問題であるため難易度が高い問題が多い。長い文章を読みながら問題解決に必要な情報を取り出すことが重要になってくる。授業において必要な情報に○で囲ませたり、下線を引かせたりしながら丁寧に取り扱いしていく。また、答えを求めるまでの過程に比重をおいたグループ活動などを取り入れた授業を行っていく。
技能	「技能」の観点では、県の正答率と比べると13問中7問が大きく上回っており、県の正答率にとどかなかったのは、2問である。その問いは「被乗数が帯分数、乗数が乗法の計算ができる」と「落ちや重なりがないように、順序よく調べることができる」という問いであるが、県とほぼ同じ程度である。内容・領域等では、「量と測定」や「図形」が、大きく上回る結果である。	「技能」に関わる問題としては、計算問題が多い。7年生の学習内容としては「数と式」の領域が多いため、授業の最初に計算小テストを行い、単元が終わったところで中テストを繰り返し行っていく。また、週末課題として計算プリントに取り組みさせていく。「数量関係」の授業においてはワークシートなどを使って丁寧に取り扱いしていく。
知識・理解	「知識・理解」の観点では、県の正答率を上回る程度である。9問中、県の正答率にとどかなかったのは、3問である。特に「柱状グラフにおける資料の分布の様子を理解している」という問いが、県の正答率を大きく下回っている。内容・領域等では、「図形」が十分に定着できていない生徒が若干多いようである。	用語や基本となる知識の習得については、繰り返し復習させる必要がある。授業では教科書に下線を引かせるなど丁寧に取り扱い、定期テストなどに意識して出題していくことで生徒に理解させていく。また、「図形」の領域では、グループ学習と個別指導の機会をできるだけ設定し、ワークシートを使い、基礎知識の定着を図っていく。

全体の概要

- ・話し合い活動やICTを用いた活動について好意的な解答が多い。
- ・宿題の提出についての意識は良いが、予習・復習の習慣はついていない生徒が多い。

①県と比較して数値が高い項目

番号	項目	差	本校	県
8	土曜日は、何をしてお過ごしが多いですか。学校の部活動に参加している	27	38.5	11.5
8	土曜日は、何をしてお過ごしが多いですか。習い事やスポーツ、地域の活動に参加している	16.7	33.3	16.7
32	社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	17.9	76.9	59.0
39	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	16.6	51.3	34.7
19	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。	14.5	15.4	29.9

分析

小学校からの取り組みもあり、学習において根拠をもとに解答したり考えようとする姿勢がみられ、自分の考えを分かりやすく伝えることに対する苦手意識は低い。特に社会や国語で学習したことが役に立つと考えている生徒が多い。  
運動部の加入率が高く、社会体育で活動している生徒が多いことから、スポーツに対する興味関心が高い生徒が多い。

取り組み

今後も学習活動全体を通して自分の考えを言語で伝える活動と根拠をもとに考える学習を引き続き継続するとともに、学習への意味づけを高めることができるよう、身のまわりの事象や進路との関連を図った学習活動を取り入れていく。  
スポーツに親しむ意識は高いため、今後は学習活動と両輪で、学校生活を送ることができるように支援していきたい。

②県と比較して数値が低い項目

番号	項目	差	本校	県
5	将来の夢や目標をもっている	19.7	41.0	60.7
14	学校の授業の復習をしている	18.4	7.7	26.1
15	苦手な教科の勉強をしている	26.3	0.0	26.3
61	普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。3時間以上、4時間より少ない	11.1	15.4	4.3
36	読書は好きだ	14.6	28.2	44.6

分析

ほとんどの生徒が宿題の習慣がついているが、既習内容の予習・復習や、苦手教科の学習といった段階までは意識が到達していない。  
読書を好んで親しむ生徒の割合が少ない。  
また、学習したことが将来役に立つと考えているが、将来の夢や目標については漠然とした意識の生徒の割合が多い。進路情報の不足も原因として考えられる。  
また、余暇活動で携帯電話やスマートフォンを長時間利用している生徒が多い。

取り組み

宿題に加えて、既習内容の予習・復習や苦手教科の学習が学力向上へとつながることを意識付けし続けていく。また、生徒の実態に応じて家庭学習の方法を提示していく。  
生徒一人ひとりが自分の興味・関心に合う本を採択するように働きかけ、読書の時間を継続して確保し、読書に親しませる。自分の考えを表現することに対するの苦手意識は低いいため、語彙力を高めることで、自分の思いを適切な言葉で表現する力の向上に繋がると考える。  
進路学習では具体的な例を数多く提示し、学習内容との関連を図りながら生徒一人ひとりの興味・関心に応じて進めていく。  
携帯電話やスマートフォン等の所持は禁止しているにも関わらず、所持・使用頻度は県を大きく上回っており、学校生活への影響や「情報モラル教育」については、今後も指導が必要である。